市民と市長の対話集会
「つながるまち、小郡」を語ろう！

平成２９年８月１日（火）
午後７時～午後８時３０分
御原校区公民館公民館

意見交換議事録

質問者Ａ：　マニフェストの実現のためには、市の幹部の方、市の職員の方、市会議員の方、それから市民の方が、ふんどしを締めてかからなければだめだと思う。今までの市のやり方は、はっきり言えばそういうことをしていない。だから、職員たちが慣れていないと思うので、慣れていただきたい。そのためには、市の職員が一致団結してやっていただきたい。そのためには、早く副市長を決めていただいて、皆さんとやっていただきたい。

それから、市議会を見ていたが、これは非常に長い。期間は 3 週間あるが、ほかの市では、2 週間で終わっている。なぜ小郡は 3 週間もかかるのか。これではやはり皆さんが手間を取られるのではないか。2 週間であれば、2 週間で終わらせていただきたい。

それからもう一つは、つながるまちづくり。これは市民の方が、みんなでまちづくりをし、つながっていくでしょう。しかし、外部にもでないといけない。そのために、他の市に行って、向こうの情報を取り、こっちがまた情報を出し、そうしてやっていくのが一番大事ではないか。そのためには、久留米なら久留米とか、そういったところに行って、そろばん踊りに小郡市民が混じり合っていく。博多どんたくにも行ってみてはいかがか。他の市長とか県知事とかがみんなパレードに出ている。小郡市も１００人ぐらい連れて行って、小郡音頭があるので、ほかの観光客もいっぱいきているから、小郡市というものがぜったい大きくなるためには、そういうことをやっていくことが活性化につながるのではないか。そして市民も 100 人ぐらい出れば、つながりもできるので、そういうつながりを持っていただきたい。

加地市長：　私が職員と一体となるというご提言があったと思う。もちろん当選までは職員とは接していないわけですが、今やっと職員と接し始めて 2 か月半がたとうとしています。いろんな形でこのマニフェストについても、議会を通して一緒に問題を共有していただき、いろんな形で私のやろうとしていることについて、随分職員にも理解してもらっているのではないかと思う。これからは実際にそれをどう形にしていくのかということについて、気持ちを 1 つにして頑張っていける体制ができているかなと思うので、ご期待いた

だければと思う。

副市長を決めることについても、とても大事な要件となっており、例えばまさに朝倉市ではタイミングが悪いことに、市長だけで、副市長は不在である。本当に１人で全ての問題を抱えて大変な状況だというのが分かる。いろんな危機管理の問題からも、私が１人でいることは、大変問題だと思っている。１日も早く、議会の皆さんにご理解いただいて、体制を整えたいと思っている。また、つながるまちについても、頑張って外に出て、一生懸命皆さんと、小郡を外でＰＲできるようにしていきたいと思っているので、いろんなイベントを視野にいれながら頑張りたい。実は、最近のことでいうと、枝豆祭りというものがあって、大刀洗もやっている。小郡では、宝満の市のみなさんと、飲食店組合のみなさんがタッグを組んでイベント化した。そこで、小郡も大刀洗もお互い枝豆祭りだから、大刀洗の町長と私とでＰＲ映像を作らせていただき、共同戦線で頑張るんだということで、そういうつながりみたいなものでお互いに結束して、いいところを両方とも伸ばしてやっているので、そんなことも意識しながら、周辺のまちとも仲良く、そして元気に競い合いながら、ほかのところにもどんどん出て行って小郡をアピールしていきたい。

黒岩環境経済部長：　観光の関係で、観光情報の発信ということで、小郡市単独ではなくて、グランドクロス、クロスロードという、ジャンクションがある鳥栖市と基山町と小郡市と久留米市の 4 自治体が共同でそういった観光情報を発信し、それに九州の玄関口である福岡市と、共同で 5 つの自治体がグランドクロスというふうな形での情報発信をやっている。小郡市の観光情報についても、福岡市の方に出向いて、福岡市役所の広場であったりとか、アクロスの広場であったりとかで、いろんなイベントをやっている。先日は、西鉄電車を使って小郡市の方に来ていただいて、電車で向かい合わせになって婚活事業をやって、小郡市の観光施設を巡ってもらうというような仕掛けもやっている。今後も積極的に情報発信していきたい。

質問者Ｂ：　私は農業をしている関係で、発言させていただきたい。小郡市の農地は、2,000 ヘクタールぐらいあるらしい。その中で、農家戸数は約 880 戸、その中で、専業農家が 140 戸ほどあって、後継者の問題がある。後継者は 880 戸のうち、わずか 123 名しかいないという問題があり、約 14 パーセントの割合になる。後継者問題について、今現在小郡として認定農業者の会とか 4H クラブというものがあり、そういうことでご支援をいただいているかと思う。また小郡市の園芸産地支援事業というものがあると思うが、補助率が 20 パーセントで、補助額の上限が 60 万円だったかはっきり覚えていないが、それぐらいだったと思う。また、その事業を使った後の 3 年間は、その事業は使えないということで、不自由を感じている。また補助金も少ないということで、農業をするからには、もっと資金が必要な点も十分にあるかと思う。私も県の補助事業を使わせていただいている。また国のパワーアップ事業もあるようだけれども、後継者を育てるためには、もう少

し農家自身も努力しないといけないけれども、市としてもご支援のほどをお願いしたいと思う。

黒岩環境経済部長：　農業の後継者の育成ということ。実際、農業の後継者が、だんだん少なくなってきているという現状は充分分かっている。小郡市においては、先ほど言われた園芸関係の補助、これは市としては、20 パーセントしか補助はしてないが、上限 40 万と 60 万の補助をやっている。この予算についても、今年待たれている方もたくさんおられるということで、額を昨年に比べて 240 万円から 300 万円に増額している。しかし、まだまだ待っている方もおられる。この上限についても、今後見直す必要があると思っている。また、これから農業について農業収益があがる、儲かる農業をしていかないといけないということで、若い方の農業者に対しての支援も行っている。特に若い方は、野菜などの園芸施設を含めて、そういった取り組みがさかんに取り組まれている。県の補助事業のパワーアップの補助事業とか、あるいは高収益の園芸施設の補助ということで、そういったハウスの補助、これは２分の１の補助が出るようにしているが、小郡市としてはそういった補助も積極的に補助の申請をしていて、この小郡地区あるいは隣の北野・大刀洗も含めたところで、福岡県の補助事業の採択をたくさん受けられるように努力をしている。農業については、いろいろな機械とか農業施設で非常にお金がかかる部分もある。そういった部分についても、市としても農業者の負担にならないようにしっかりと補助ができるように努力していきたい。

加地市長：　１つだけ補足。そういう形で下支えはしていくけれども、もっと新たな形での振興策もあるのではないか。それはどういうことかというと、さまざまな企業経営の農業として、小郡の地で、もっと活躍の場を広げていきたいというところがある。そういった企業と地元の方々とうまく組み合わせることによって、新たな資金や技術をつぎ込んでいただき、違う形の農業展開ということも、できるのではないかと思っている。どうしても補助金であり、今ある事の中で勝負しようと思っても、先々まで見通しが立たない。だから、なかなか後継者が見つからないということがでてくると思うが、様々な高付加価値なものを作っていく、製品化していく、いろんな資本と結びついていく、新たな形でマーケットを広げていく、という様々な形での農業のあり方もあるんじゃないかと思っている。これについては、私も研究会を作りながら、多くの方々と話をして新しい農業のあり方ということについても、様々な専門家の方々をこの小郡の地に呼んできて進めていきたいと思っているので、またそういう時にでも是非いろんな知恵や力を皆さんにお借りしたいと思っている。よろしくお願いしたい。

質問者Ｃ：　市長が公約されたことを実施するには、ここに来ている部長さん方のお力添えがぜひとも必要だと思う。市長さんの意欲と努力を結びつけるのは、市の部長さん方の

協力が必要だと思うので、こういう機会をぜひとも多く設けていただきたいと思う。

加地市長：　逆に言うと、集会はこういう形でやると大規模になって、あまり対話が成り立たないのではないかと思う。もっと少ない人数の中で、本当に膝を突き合わせながら、小さいテーマの中でもっと話をする場を作っていくことも大事かなと思っている。ときにはみなさん共通するテーマで多くの方々に集まっていただくこともいいと思っているが、様々な形で、様々なテーマで、様々な場所で、必要であれば、皆さんに集まっていただいて、どんなところでも対話していきたいと思っている。

質問者Ｄ：　農業関係で意見を述べさせていただく。私が持って来たのは、小郡市の食料・農業・農村基本計画である。平成 27 年に作られているが、この最終目標は、平成 36 年となっている。当時、私は、小郡市の農業を考える会の委員をしていた。当時申し上げていたのは、10 年後の計画じゃなくて、6 年か 7 年のスパンでやるということ。10 年前にやった計画は誰も見ない。多分部長も見ていないと思う。10 年間で、課長は 4 人も 5 人も変わってしまう。ここで申し上げたいのは、市長が選挙中におっしゃっていた、スーパー公務員を作るということ。そうであれば、こうした計画も基本計画を作るときに、中間年次を踏まえて、最終年度を見て、今の時代であれば、5 年ぐらいで大きく変わってくる。そうした実のある計画を作るように要望する。

加地市長：　長期的な計画の作り方についてのご提言と思う。市の総合振興計画についても、10 年という中でやっているが、私も選挙と合わせる形で、4 年、8 年という任期に合わせて責任を持ってその計画を運行していくという中で、見直しが必要ではないかと思っている。様々な計画についても、やはり多少長いスパンのものがないと、何に向かっていくのかということがあると思う。これまでの行政経験の中で、皆さんやってきたので、そういう 10 年という 1 つの区切りかもしれないけれども、確かにおっしゃるように、ある程度今の時代の動きがあまりにも早すぎて、一年でもころころ変わる時代であるので、変わることを前提にしながらどういう風に変えていくかという仕組みも一緒に合わせて考えるべきではないかと思う。修正しやすい計画というか、そういったこともしていくことが大事なのではないかと思っている。

黒岩環境経済部長：　食料・農業・農村基本計画は、基本条例に基づいて計画を策定している。実際こういう計画を作ったものの、実際この計画通り動いているかどうか、そういったことについて、市民の方にも入っていただいたところで、農業関係の政策審議会とかにお諮りして、また市民の方からいろいろな立場の方のご意見をいただくということで、明日の小郡の農業を考える会とか、そういった方々からたくさん意見をいただいて、やはりこういった計画の見直しなり、そういったことが必要な場合には、そういった意見を踏まえて見直し

を進めていきたいと考えている。

質問者Ｅ：　「共働のまちづくり」ということで、今までは「協力の協」であったけれども、これから先いろんな案内は「共働」に変わるのか。公民館からいろいろ文書を出すにしろ、今までの「協働のまちづくり」と印刷された封筒とかもあるので、今後どういう形でいくのかをはっきり示していただければありがたい。

加地市長：　大変現実的な話であるかと思う。一気に変わることはないと思っていただいて結構である。制度のあり方についても、まだまだ皆さんともお話をし、今年の３月議会に条例を提案しようと言っていたのがストップしてしまったが、きちっと条例に基づいて位置づけを明確にした上で、再度定義づけをした上で、皆さんに「変えます」とアナウンスできるような手順を踏みたいと思っているので、今日、明日、来年いきなり変えるというのは、できないし、するつもりはない。もう少し様子を見て、封筒とかを印刷するときも、ちょっと手加減してやっていただけるとありがたい。その辺は事前にきちっと時間をとってやりたいと思っている。

質問者Ｆ：　８つの柱の４番目のスタートアップの支援について、少しご説明いただきたい。

加地市長：　単純に言いまして、小郡の雰囲気の中で、私もずっと、博多や天神で仕事をしてきた人間ですけれども、新しい企業を起こすとか、そういう空気感がないというか、多分皆さんが何か新しい発想を持って、「さぁ何かをしたいな」、「誰かに相談したいな」と思っても、なかなかそういう場所がないのではないかと思っている。これからやはり、様々な形でシニアの方々は今までの経験を生かして新たな次のチャレンジを、あるいは若い方々は自分で何かを起こしていきたいという方も出てくると思うので、そういう方々の相談のよりどころというか、そういう場所を作りながら、皆さんがより添えるような場所を作って、そこで新たなチャレンジができるような環境を作り、いろんな部分での補助やバックアップをしていきたいと思っている。今の市役所の体制で対応できているのは、おそらく「商工会に行ってください」とか、「県のこういうところに行ってください」というご案内しか残念ながらできていないと思っているので、小郡市内の中でも、そのようなやる気をもって新たなものを生み出したいという人たちが集まれる場所、お互いが励まし合える場所、そういうところを作りながらインキュベーターの場所というか、そういった場所を作りながら、是非これは施策的に強調し、ある程度目標を持って新しい企業の動きというのをバックアップしていきたいと思っている。

黒岩環境経済部長：　加地市長に替わり、今年６月の議会の補正予算で、小郡市としても

創業者の支援補助金を新設している。これは、小郡市内で新たに店舗などを開設される場合に、設備費等の補助として上限 50 万円、また空き店舗を利用して事業を行う場合に、家賃補助として上限月 3 万円を補助する、市独自の新たな制度である。市としては、今後とも創業者支援の推進に努めていきたい。

質問者Ｇ：　私は養蜂業をしている。昨年、養蜂業継続の危機を迎えて、その問題はまず自然環境の変化であった。昨年、小郡市の回覧板でレンゲの種まきを希望される方に、種の配布を募ったけれども、実際希望された方が 3 名ほどだと聞いている。一つの考えだが、できれば味坂・御原地区をそういうレンゲの特別栽培米を作って、レンゲ畑をたくさん増やしてポピー畑につながるようなレンゲ祭りなどイベント開催をしたりとか、レンゲ米からお酒を作ったり米粉作ったりそういう二次加工などの特産品を小郡市の特産品として作って行けたらいいのかなとちょっと考えている。なぜかというと、小郡市のふるさと納税では蜂蜜とかを出しているけれども、これといった特産品が小郡市に少ないのが残念なところで、そういうふるさと納税に全国から税金を納めてもらうと市の財政も少しは豊かになるのではないかと考えている。そういったレンゲ米から作るいろんな特産品を小郡市のみなさんで、特に農家の方にご協力いただいてそういったことができれば良いと考えている。

加地市長：　大変面白いご提案だと思う。本業の養蜂からの発想なのだと思うが、レンゲをまくことによって、様々な形で活用ができる。また計画的にも広がったら大変面白いプロジェクトになるのではないかと思っている。このような形で、ちゃんとビジネスと結びついた形でいろんなものを動かしていくと、おそらく継続性もできるし、非常に発展性もあるのではないかと思っている。こういう逆に言うと、市民のみなさんが自分の所からの発想を広げていく、仲間をどんどん集めていく、それをやることが私たちの仕事ではないかなと思っている。ぜひ皆さんも、いろんな形でご自身のところの周辺でこんなことしたら面白いんじゃないか、こんなふうにしたら広がるんじゃないかと、皆さんいっぱいアイデアを持っていると思うが、それを私たちはオープンな気持ちでどんどん引き上げて、皆さんと結びつけていきたいと思うので、このようなご提案を大事にしながら皆さんと一緒に考えていきたい。ぜひ面白い動きなので、注目していきたいし、ご協力をさせていただきたいと思う。

質問者Ｈ：　市民参加による体育館整備計画ということですが、40 億円をかけて作る、20 億円をかけて作ると言われても、40 億円で 20 億円回収できれば 20 億円の借金。しかし、20 億円で作っても 20 億円の回収ができなければ、どっちでも同じこと。だから、できれば収益を得られるような体育館を作っていただきたい。そうすることによって市民への負担を軽減していただきたい。

加地市長：　ご指摘の通りだと思う。今、小郡市には、公共施設の管理計画と言って、国は全自治体に宿題を投げているところであるが、体育館だけじゃなくて、いろんな建物がどんどんどんどん古くなっていく、それをまずは長く使えるように長寿命化計画を立てて、後は長く使った後は、統廃合をどうするかということを、それぞれ課題として投げかけられている。毎年毎年そういう修繕費を一体いくらかけるか、均（なら）していけば毎年多くのお金を使っていかなければいけない、そういう環境がずっとあることになる。ましてこれは放っておけない状況である。これに新しいものも作るという課題なので、これはまさにそういうことを将来のことと同じように考えた上で、ものを建てていかないと大変なことになるということ。今言っていただいたようなことを考えると、たとえば１つ体育館を作るにもこれはまだアイデア的なもので決まったことではないが、例えばその体育館の中にひとつのテナントスペースを作って、スポーツに関連する企業の方にオフィス貸しをすることができないかとか、そういうテナント料を今度は体育館の維持管理費に使うとか、簡単に言うと、飲料水の自動販売機をよく置いてあるが、あれは飲料メーカーと契約することによってその運営費を使うことができる。こういうちょっとした工夫をどう組み合わせて将来的な負担を減らすかということを、今後公共施設を考えるときには深く計画的に考えて、これから払っていくお金がいくらぐらいで、払っていけるのかということを、きちんと長いスパンで考えて計画を立てなければ成り立たない。考えられる工夫を一生懸命していきながら負担がないような形のものを、皆さんに役立つものを作っていきたいと思っている。

質問者Ｉ：　2、3か月前だったと思うが、小郡市の広報か何かの中で、都市計画の係から、意見があったら出してほしいと言うのがあったから、つたないものだが、出した。そしたら何の反応もない。それでじゃあこれは、何人ぐらいこれを出したかと、聞いたら４、５人出したそうである。じゃあその人たちと話をするのかとか、課長とか部長とかと協議する場は何か考えているのかと聞いたら、そんなのはありませんと。そういう、単にやればいいというような事務処理のやり方について、この際市長に言わなければいけないと思って来た。やろうとしたことは良いことだけれども、それを具体的にどうつなげていくかということは行政の大事なところだと思うので、ぜひそういったところでのフォローをしていただきたい。

肥山都市建設部長：　こちらのほうからお願いしておいて、それをどう利用するのかとか、それに対する回答とかがなかったということで、それに対してお詫び申し上げたい。おそらく都市計画の景観条例とかいろんな制度を行うために意見を聞いたりしているところがあるので、それに関して、また担当部署としっかりと今後のあり方について協議をして改善をしていきたい。

加地市長：　ご指摘ありがとうございます。申し訳ありません。今いろんな、ホームページやお手紙などで、私宛に直接いろんな話をいただいている。これについては、お答えをすべきものについてはしているつもりである。ぜひ懲りずに、これからも様々なご意見をいただければと思う。きっちりとご回答させていただきたい。全て絶対できるということはないが、皆さんの意見を最大限に考えて取り組んでいきたい。

質問者Ｊ：　７月だったと思うが、東京の新宿でアンテナショップを出されたと思う。久留米市とか市町村いくつかで出されたと思うが、それは全国に、小郡の情報発信をするということで、非常にいいことだと思う。その目的と、今後どういう風に利用されるか、それから今、小郡市としてはどういうものを出されているかというのをお尋ねしたい。

大津総務部長：　アンテナショップを７月にオープンさせていただいた。これは小郡だけの店ではなくて、久留米広域連携中枢都市圏ということで、久留米・小郡・うきは・大川・大刀洗・大木の４市２町で久留米広域連携中枢都市という１つの連合組織を作っているということで、そちらの出店ということになる。福岡久留米館という名称で、東京の新橋駅近くにある。広さが 200 ㎡くらいあったと思う。その中で、小郡に限らず、久留米、大川、うきはとか、そういった産品を展示し、販売をしている。当然小郡の産品も出てはいるが、やはり関連商品の数が少ないというのが、残念なところであるが、そういったところで、首都圏に向けて、いろんな産品の紹介をしつつ、情報発信もしていくというのが目的である。併せて市長の方からも少し出たが、定住というか、人を増やしていくというふうな考え方もあるので、いろんなイベントを組む中で、当然産品の集中も行うけれども、小郡や久留米に関しては、こういった街ですよという PR をして、できるだけ観光だけではなくて定住も含めて人を呼び込みたいというところで、そういうものを今年新たにしているところである。どうぞお近くに、東京のほうに、親戚もしくはご自身が行かれる場合に立ち寄っていただくと、こういったところなのだなとご理解いただけるのかなと思っている。今年初めての取り組みということで、急に終わるということはないと思うので、長い目で産品の PR とか人の呼込みを行っていきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

質問者Ｋ：　味坂スマートインターチェンジは、ある程度決定しているようだが、当初我々が聞いている話は、味坂地区を、味坂駅あるいはその周辺をもっと活性化する、そういうものであると聞いていた。ところが今決定された、ほぼ決定だというところは、西福童の一部だけがこの影響範囲に入っている。どうもおかしいんではないかと。西福童は、すでに下水道の終末処理場をつくったとき、いろんな問題があって、それに対する 16 か条の要求書が出て、いろんな検討がされている地域である。それに加えて新しいインター

をあそこだけに持ってくるというのは、なぜもっと範囲を広げないのかと。例えば唯一のチャンスであると我々が考えていたのは、味坂地区を何とかできるのではないかと。小郡の中で味坂地区が今、一番置いていかれている。この地域の活性化に大いに役立つんじゃないかと。ある人は、西鉄の味坂駅を恥だと言った。無人駅で。全く今度の計画はそれを解消するような対策には何もなっていない。宝満川の向こうで道は切れる。橋をかけて味坂の方まで、もうちょっと引っ張れば地域はもっと活性化する。なぜそこまで考えないのかというのが私どもの今の疑問。ほぼ決定だとは言いながら、また 6 年先と言う話も聞いている。検討の余地があれば、ぜひとも考慮検討をしていただきたいと思っている。

肥山都市建設部長：　スマートインターチェンジについてですが、名称は、仮称ということで味坂が付いているが、先月の末に国土交通省の方より、直接国の方が準備段階調査をするということで予算をつけて調査に入るという決定がなされた。これは小郡市、それから鳥栖市・福岡県・佐賀県この２県２市でぜひとも作ってほしいということで要望書を出してきたので、それによる決定ということである。それから場所の問題であるが、場所は実はまだ決まっていない。ただ大きなエリアとして、端間駅から味坂駅の間で、実際高速道路は鳥栖ジャンクションがある。それから南のほうは久留米のインターがあり、それの前後については実際車線変更したりする関係で、2 キロか 3 キロくらいは作れないところがある。それから道路の関係で高かったり低かったりという関係があり、実際作られるエリアがせばまってくる。場所的には鳥栖のジャンクションと久留米のインターの間、これが九州縦貫道の一番距離が長い 10 キロ超えたエリアがあるので、ぜひともその間に 1 つということで要望してきたので、今後この場所については国の方が準備段階調査で入るので、その中で実際検証して場所を決めていくというふうな形になる。

質問者Ｋ：　仮の図面がある。正式じゃなくてもある。しかも、宝満川に新しい端間橋を作った。そしてその向こうに高架橋ができて端間地区というのはものすごく変わった。そのすぐ近くにさらに大きな道路を持ってこようとしていることになる。だからもっと効果的に場所を考えたらどうか。もっと南に、例えばずっと南じゃなくても、いくらかその辺の位置を考えれば地域振興に幅広く役立つはずである。だから位置の検討をまだ決まっていなければ、ぜひともその辺を考えてやっていただきたいというのが私のお願いである。

肥山都市建設部長：　小郡市の要望ということで頭に入れた上で決定にもっていきたいと思う。ただ、福岡県・佐賀県・鳥栖市のほうのつながりもあり、いろんな難しい問題もある。その中で一番いい選択を小郡市としてはやっていきたいと考えている。

質問者Ｌ：　御原校区環境衛生部会では、現在宝満川左岸、500 号線の大板井橋から端間の歩道橋まで約 3 キロ程度の堤防の法面、河川敷等の草刈り等を年間 6 回ほど延べ 400 人

全国のみなさんの協力を得て実施し、1年中川の流れが見えるような環境を維持している。以前は、竹やぶで水の流れの見えるところはほとんどなかった。協力して働く協働のまちづくりの中の環境部会でございます。そういうことで、市の方としても4番の七夕ミズベリング計画というのが市長のマニフェストにありますが、私たちの作業がなんぼか楽になるような計画をしていただけるのか。具体的にどういうことをやりたいと思われているのか、そのあたりをお尋ねする。

加地市長：　具体的にどの場所でどのようなことをやるかというところまではまだ至っていない。ただ、もしそういうご努力されているところを皆さんに申し上げるとすれば、共にその作業を一緒にできる、あるいは作業をしていただく甲斐があるような活用の仕方というか、そういったことを考えていかなければいけないと思っている。きれいにすることはとても大事であるが、きれいに維持し、皆さんに努力をしていただくためには、活用するということがとても大事だと思っている。様々な活用の仕方があると思うが、まさにこれも川のいい環境を活かしながらさまざまなお食事ができるようなものができないか、場所が作れないかとか、もっとイベント的に花火大会だけの限定的な活用になっているので、これを年間様々なイベントで、たとえば、お花のイベントがあったり、皆さんがウォーキングイベントで使っていただくとか、そういったことができないかということを考えている。おそらくそういう形で皆さんが活用すれば、どんなにご努力があるのかということに気がついていただいて、皆さんもそれに対して「自分達も参加する」、あるいは「市が税金をその支援に使うことは当然だよね」と思ってもらえるような、そういう雰囲気に変わってくるのではないかと思う。ぜひそういう隠れた大変なご努力をされていることについて、光を当てさせていただいて、一緒にこれを皆さんと共通の問題として取り組んでいければと思っている。どうぞまた場所とか詳しいところも教えていただいて、ここに来て一緒に手伝ってみろというふうに言っていただいたら、私も体でいろんなことを覚えさせていただくことができるかと思うので、一緒に取り組ませていただきたい。